

平成 30 年度にかほ市議会報告会

総 括

(令和元年 5 月)

目次

広報広聴委員長あいさつ…2	
開催概要・次第	…3
講演・発表・講評の記録	
講演	…5
発表	…7
講評	…9
アンケート	…10

議会報告会を終えて

平成30年度の議会報告会・意見交換会は議員各位、事務局のご協力ありがとうございました。にかほ市議会では初めての試み、市民をまじえた「ワークショップ」でしたが、所管する広報広聴委員長としては、市民39名の参加を頂き、何とか終わることができたという実感です。市民の様々な意見、本音を聴くことができたのではないかと考えております。

山梨学院大学の江藤先生ご指導の下、ワークショップはワールドカフェ式ということでしたが、テーブルのメンバーが入れ替わることで「あのテーブルではこんな良い意見があった」などと全体で話し合ったような効果が得られたようです。もっと少数で議論を深める方法もあるようですが、今回はひとまず「市民と議会が身近になったこと」「市民が充実した表情で帰っていったこと」が大きな成果であったと捉えています。

今回の議会報告会のまとめは議会だより5月号に掲載しております。1回やったから議会報告会の役目、役割が終わった訳ではありません。「議会報告会に参加した意見が何も反映・報告されない」「言っても無駄だ」では市民には無力感しか生まれません。今後、市民の皆さんからいただいた意見やアンケートを、改革推進会議をはじめ議会全体で検討しなければなりません。改革推進会議や常任委員会等での検討から政策提言につなげるもの、当局に転送して早急に解決できるもの、などに分類されると思います。その進捗状況は、少しずつでも、議会だよりで市民に報告することが大事です。

引き続き令和元年度も、議会報告会・意見交換会（ワークショップ）を一部の地域だけでなく、色々な場所で、色々な人々を対象に開催する予定であります。中学生、高校生や各種団体等に働きかけ、色々なアイデアや意見を頂けるように努力をしております。議会からの政策提言の仕組みづくりは急がなければなりません。議会広報広聴委員会では、市民の考えを集め、その成果を市民へ返すというサイクルを議会報告会と議会だよりを通じて実現してまいります。議員の皆様にはより一層のご協力をお願い申し上げます。

令和元年5月

にかほ市議会広報広聴委員長 佐々木 孝二

開催概要

1.期日 H31.3.27(水)

2.時間 14:00~16:45

3.会場 象潟公民館大ホール

4.参加対象 議会議員17人(1名欠)

市民A 30人(各議員確保)、

市民B 約9人(一般)

計 56人→6~7人×9テーブル

5.開催目的

- ・にかほ市議会基本条例第10条に定める議会報告会を開催する。
- ・あり方を検証し新たなスタイルの「議会と市民との関わり方」を探る。
- ・市民と議会が共同作業で地域課題を探る。 →政策提案へ活用
- ・市民の要望を吸い上げる。 →政策提案へ活用
- ・議会の働き・役目を知ってもらう。垣根を低く →市政・議会への関心

6.改善点

- ・対面式(教室型)からワークショップ式(ワールドカフェ型 1テーブル6~7人程度)への転換
- ・議会報告の省略(今回限り)
- ・茶菓、BGMなどリラックスできる雰囲気づくり

7.次第は次ページ

※1 議会報告会の成果(アンケート、各テーブルの発表、まとめなど)は、議会政策検討会議(設置準備中)での検討項目とする。

※2 まとめやその後の検討結果は、議会だよりへ掲載、市長等への報告を行う。

8.懇親会

たつみ寛洋ホテル(江藤教授宿泊)

18:00頃~

教授、議員ほか

次 第

開会 (総合司会：広報広聴副委員長) 14：00

議長あいさつ (5分)

(1)講演「にかほ市議会の挑戦－議会報告会進化論－」

江藤俊昭氏 (山梨学院大学教授) 14：05～14：35 (30分)

(2)ワークショップ 進行・指導：江藤俊昭氏 14：35～16：00 (85分)

共通テーマ

「にかほの未来を探る」

個別テーマ

1)文化施設を創ろう！ 資料1(※議員のみ別資料あり)

課題 文化施設を建設するとした合併協定が実現していないこと

2)移住・定住を促進しよう！ 資料2

課題 人口減少が進んでいること

3)観光で賑わいを創ろう！ 資料3

課題 観光客数が伸び悩んでいること

作業1.共通テーマ「にかほのいい所、悪いところ」

(自己紹介を兼ねて)

作業2.個別テーマの問題・課題・原因を探る

「どこに問題があるのか?」「原因は何か?」

作業3.個別テーマの解決の方向を探る

「どうすれば解決できるか?」

3つのテーマで
繰り返す

作業4.共通テーマ「にかほをよくする提言!」

(4)発表 各テーブル代表 16：05～16：30 (25分)

(5)講評・まとめ 江藤俊昭氏 16：30～16：40 (10分)

(6)広報広聴委員長あいさつ

閉会 16：40

その他 アンケート実施 (要望聴取) 開会前配布、閉会后回収

講演・発表・講評の記録

講演「にかほ市議会の挑戦―議会報告会進化論―」

江藤俊昭氏（山梨学院大学教授）

日本では市町村合併で議員の数をどんどん減らしてしまいました。住民の代表が少なくなっているということ。民主主義の危機という声をもっと高まっていいはずだが、あまりそういう声は聞こえない。地方議員へのNHKアンケートで「議員をこれからも続けたいか？」という問いに「思わない」が半分くらいいる。市民は「本会議、委員会に出ているのが議員だ」と思うかもしれないが、もっといろいろな活動をしているという現実があります。

にかほ市では今まで議会報告会を開催していたということだが、にかほ市議会では 8 年前に基本条例を制定して、議会として住民の前に出て行こうとしたと思います。それまで市民には議会が見えなかった。

議会がどういうことをしているのか知ってもらおうと議会報告会を開催する。そこで報告だけをしていたのではつまらない。つまらないが、私はそれ自体（報告すること）は評価しています。市民の中へ出て行って報告する。だけど議会として何を報告するのか。例えば議会だよりを見ると「議案すべて可決」とかあります。決まったこと（議決・決定したこと）を報告していますよね。議会報告会の昨年度の実績を見たが仁賀保地域で 16 名、20 名、金浦地域で 0 名、象潟地域で 2 名、6 名、7 名などとなっている。報告会は大事だけど、決まってからの報告でなく、どういう課題があって、市民がどういう意見を持っているか、これを市民から募って、それを政策提言、行政の監視につなげていったらいいと、これが（にかほ市の）議会報告会の課題としているところなんでしょうね。

今日のワークショップでは、市民の意見から市の課題、色々な意見や立場の人がいる中で、政策や行政監視の重要な「種」「宝」にしたい。そう位置付けたい。にかほ市議会ではそういうことで、この場を設けている訳です。

本日はいろいろな課題やアイデアを出していただきたいのですが、その前に議会の役割について再確認したいと思います。

始めに 1 です。市民の方にとって、住民自治の根幹と言えば市長ではないかと思いますが、住民自治の根幹は議会です。自治体の法律は条例ですが、条例を決めているのは議会です。自治体はお金で動いていますが、予算や決算を決めているのは議会です。契約などを決めているのも議会です。自治体の経営にとって大事な権限は議会ではたらいっています。これは日本だけではなく、万国共通です。議会の役割が大きいことをもう 1 度確認してもらいたいと思います。議員には責任があり、将来にわたって責任があります。なぜ議会の提言があるかという、住民自治の根幹だからです。なぜ住民自治の根幹とよばれるのかという、多様な人たちが選挙で選ばれているからです。公開・討議するときに論点が明確になる、あるいは合意が形成できる、だから議会は大事な訳です。議論する場所と情報を提供するの、行政と議会の役割です。市民が私の意見は A 議員

と同じ、などと発見する空間が議会です。ですので、議会として真剣に議論しないものは議会とは呼びません。ここ 10 数年で議会の役割は飛躍的に高まりました。そして、活動しないと議会の役割を果たせない時代です。地域の自由度が高まり、議会の責任がととも重くなりました。

続いて 2 の住民自治の行方についてです。今私がお話しした動きは元々ありましたが、にかほ市では議会としてのろしを上げたのが 8 年前の平成 23 年、議会基本条例を作っています。真剣に市民と向き合おう、市民の福祉の向上に役立つような議会になっていこう、としたわけです。議会議員の直接選挙は万国共通ですが、市長の直接選挙は世界的に珍しいです。両方を選挙で選んでいますので、同じことをやっても意味がない、違う角度から見るということで、緊張関係を持って修正案を出す、議員間でしっかり議論をする。そして地方自治体は直接民主主義です。リコール制度で住民がやめさせることができますし、自治体の法律である条例を住民が直接請求することができます。ですので、地方自治体は住民・議会・長が一緒になってやっていくものです。そのようなことが議会基本条例にしっかり書き込まれています。閉鎖的ではなく住民と歩む、質問の場だけではなく議員間でしっかり議論する、などということが基本条例に書き込まれています。議論する場を市民も含めて作り出していく、市民の意見は政策を作る時の宝庫ですから、それを議員が自覚し動かしていく大事な場所として、本日は位置づけられているかと思えます。先ほどお話がありましたが、意見を政策提言に生かせるような最初の機会として、今回のような会を開いたということです。にかほ市議会では新しい挑戦をしていて、皆さんが一緒になって進めていくということでした。私からは以上です。ありがとうございました。

発表（ワークショップの成果）

●1 班

・複合施設で世代間交流をしないと思っても、そこに行くための手段がないと上手くいかない・有効利用できない。

・移住・定住について 若い人たちに集まってもらうという意味でも、複合施設はあるべきだ。情報発信はホームページなどだけでなく、SNS とのつながりも行えばよい。

・先日ユーチューブを見たが、にかほ市のPR 動画は以前よりはるかに綺麗なものが上がっていた。しかし、それを見に行くところまでのアプローチは弱いかと思う。

●2 班

・九十九島の草刈について 今はやっている方たちが動けるのでよいが、今後高齢化していくことを考えれば、にかほ市が第 3 セクターとなってやっていくのもありではないか。委託もありではないか。

●3 班

・「観光で賑わいを作ろう」について まずにかほ市民が地元の良さを知らなければならぬということ、市民が観光案内人になろうというアイデア

・「移住・定住を促進しよう」について 給料の高い企業を誘致することで地元でこれまでより安心して生活できるのではないか。

●4 班

・にかほ市のよいところ・悪いところについて よいところとしては、住みやすい、人がよい、山菜が豊富、魚介類が美味しい。悪いところとしては、言葉がきつい、心遣いが少ない、九十九島の展望が見えない。（他に 2 点ほどあったが聞き取れない）

・にかほ市のよいところをどうやったら伸ばせるのか まずは我々にかほ市民である誇りを持つ、改めて認識する。

・悪いところの改善策 協働・協調をやっていく

●5 班

・にかほ市のわるいところの改善策について 文化施設や観光施設はこれまでも整備してきたが、実際には使いづらいものもある。整備する時には、利用する人が便利なものを目指して調査・研究をする必要がある。

・移住・定住について 促進しなければならないと言っているが、市民自身が地元のことをよく知らない。郷土を愛する心を養う、地元のことをよく知るような取り組みをしよう。

・隣県や隣接の地域のものはよく見える。にかほ市ではないものねだりをすることが多い。隣県や隣接地のよいところは見習いながら、にかほ市のよいところを差別化・魅力化する取り組みをしていく。

●6 班

・観光施設について 文化施設ではなく複合施設の方がよいのではないか。作る時には、

市民の中での専門家の意見を聞いて作ってほしい。これからますます人口減少が進むので、施設は難しいのではないか。以上を含め、なればどのような問題があるのか考えるべき。屋内施設であれば幅広い年代と一緒に遊べる施設があればよいのではないか。看板等、もう少しお金をかけた施設にするべき。インバウンド対策はどうしているのか。リピーターを増やす方法を考えた方がよいのではないか。

・移住・定住について にかほ市は自然に恵まれ、災害が少なく、魚が美味しい。しかし、人が来ないのは、給料が安く、遊ぶ場所も少ないのが原因ではないか。

●7 班

・観光について 交通アクセスが悪いのではないか。観光のストーリーを作らなければならぬのではないか。精神的なものを大事にした取り組みが必要ではないか。

・文化施設について 交通アクセスを考えると、例えば移動図書館や、各施設に本を置き、どこにでも返せるようにしてはどうか。いらぬという方もいた。今後のことを考えれば、30代～40代の若い人の意見をよく聞いてほしい。文化施設はカダーレで十分ではないかと思うが、カダーレに行くための足の確保は充実してほしい。

・人口減少について 多様な職場、資格を生かせる職場が必要。持続可能なにかほ市にした方がよい。(必ずしも豊かになることがよいことではないのでは。)

・子どもが減少しているので維持が難しいとは思いますが、旧町単位で必ず1つは学校を残してほしい。

・若い人たちには旧3町意識がない。

●8 班

・にかほ市について 住みやすい、環境がよい、自然が豊か。道路(国道)の整備が非常に悪い。市道に関しては十分。

・文化施設について にかほ市には様々な伝統芸能や集落での行事があるので、それをもっと教えた方がよいのではないか。大きいものはいらぬが、たくさんことができ、幅広い年代が利用できるような、多目的施設を作っていただきたい。作るのであれば、市民1人1人の意識をはっきりさせるためにもアンケートをとっていただきたい。

・市民が受けるサービスについては、市が積極的に情報を発信していただきたい。

●9 班

・移住・定住について 市有地などを無償で貸し出すことで、にかほ市は住みやすくよいところだとPRし、1人でも多く移住してほしい。

・文化施設について 食事ができたりスポーツができたり、様々なことができるとよい。今の子どもたちは土に触れる機会が少ないし窮屈に思うということで、田舎のよさを生かした施設もよいのではないか。

・図書館について 集落から図書館に行きづらいので、移動図書館であれば借りやすいのではないか。

・このようなワークショップをもっと開いてほしい。このような場をもっとあれば、にかほ市はもっとよくなるのではないかと思う。市民が意見を言えるというのはとてもよい。

若い人たちが参加しやすいように、日にち・時間帯も考えていただきたいと思う。

ワークショップの講評

江藤俊昭氏

一方方向で与えられるより、様々な意見を聞くことでいろんな発見があったと思います。そういう意味で、市民の方々は自分達が主役なんだと感じたのではないかと思います。議員の方々は、市民の方々のアイディアはすごいと実感したのではと思います。重要なのは、議員が全体として市民と関わり、共有することです。

おそらく今日の議論で、相互に関係していると改めて感じたと思います。人口が減少していく中、にかほ市はどのような対応をとるのかとなれば体制の問題とか、施設を作る・作らないとなれば子ども教育の問題や高齢化や福祉の問題と、というように相互に密接の関係していることを理解していただけたと思います。特に今後、人口が減少していく中でIターン・Uターン・Jターンなどがあった時に、空き家対策問題もとても重要な課題であると思います。相互に関係しているものをどう切り分けていくかが今後の課題かと思っています。

もう1点、重要なことがあります。にかほ市のよいところ・素晴らしいところを若い人たちにも伝えていただきたいと思います。それが誇りを持ってこのまちをよくしていくとする人たちを育てていくことになると思います。地域の足元を見ることが、誇りを持ち、住み続けたい、よりよくしたい、とつながっていくと思います。

今後、市民の方々にはアイディアなどはどんどん出していただきたいです。議会については、市民の意見を聞きっぱなしにははいけません。聞いたものをどうすれば政策提言等に生かしていけるかを議会として議論し、その後市民に対してどうなったか返していただかなければならないと思います。市民の方々は専門家ですので、アイディアを持っています。ですので、議員だけが力を持っているわけではありません。市民の方々の力を借りて、政策提言等に生かすことを考えていただきたいと思います。さらに、アイディアから政策を作るためには、コミュニティカルテと呼ばれる、地域にどのような課題があるかなどを書いた資料があるとよいと思います。

9班からの発表でもあったように、今日のような場がもっとあればもっと素晴らしいまちになるのではないかと、私も改めて感じました。本日はありがとうございました。

アンケート集計結果（総数 32 枚）

問1 あなたのお住まいの地域は？

①象潟（20人） ②金浦（4人） ③仁賀保（8人）

問2 あなたの性別は？

①男（17人） ②女（15人）

問3 あなたの年齢は？

①10代（0人） ②20代（0人） ③30代（1人） ④40代（0人）
⑤50代（4人） ⑥60代（13人） ⑦70代（9人） ⑧80代（5人）

問4 今回の議会報告会をどのようにお感じになりましたか？

(1) 時間帯

①良い（15人）

②悪い（6人）

- ・土日。仕事がある為。
- ・若い人達も参加出来る時間帯も!!
- ・若い人が参加出来るように。次代は若者です。
- ・6:00～7:00頃から。若い人の話を聞いてほしい。
- ・日中も良いが若い人（働いている人）も参加できる時間帯・曜日も考えてほしい。

③どちらともいえない（10人）

※無回答（1人）

(2) 開催場所

①良い（26人）

②悪い（1人）

- ・三地区を回ってみた方が良いのでは。

③どちらともいえない（5人）

(3) 内容

①分かりやすかった（22人）

- ・大変よかった。
- ・他の人の意見を聞く事が出来た。江藤先生の講演もよかった。
- ・いろんな声が出てよかった。
- ・テーマがわかりやすかった。
- ・先生のお話が興味深く、わかりやすかった。

②分かりにくかった（1人）

- ・個別テーマの分類より、もう少し踏み込んだ議論をしたかった。テーマが広すぎたのではないか。

③どちらともいえない（7人）

- ・出された意見、提言がどのように生かされるか疑問である。
- ・ワークショップは細切れで短い（移動の意味あったのか）

※無回答（2人）

(4) 次回の議会報告会には、どのような内容を期待しますか？

- ・にかほ市の産業（方向性）
- ・九十九島のあり方
- ・今日と同じの課題でも良いのではないか。
- ・少子高齢化について
- ・全体の意見と、一つはテーマを絞って深められればと思います。
- ・議会の課題は何か、市民と共有したい。
- ・第1回目を踏まえての1歩踏み込んだ意見交換
- ・テーマの選択制によるワークショップ運営
- ・今後の皆様の意見を具体的に実行に向える様に話したい。
- ・今回の内容でもいい。市民に声を出させるようにしてほしい。
- ・もっと時間がほしい。
- ・若年層を含めた意見交換会。10代～20代 学生、30代 子育て世代
- ・場所、対象を変えて今後も継続。
- ・各層を入れ討議を。
- ・今回のようなワークショップをいろんな場所、日程、若い人も含めて参加しやすくやってほしいです。
- ・ワークショップを2回、3回とやってほしい。
- ・定期的な開催を希望します。
- ・今日の結果がどういう風に反映されていくのか、それを見えていますよ。
- ・今回のワークショップだけでは解決は出来ないはず。回を重ねて全体のスキルを高めてみては…。
- ・今回出た意見は何も新鮮な事でなく、このような現状を把握していないで議員活動をしているのが残念。

問5 議会の情報をどんな手段で得ていますか。（※複数回答あり）

①議会だより（23人） ②議会傍聴（5人） ③議員本人（10人）

④議員や会派が発行する印刷物（10人） ⑤ネット（1人） ⑥その他（1人）

※無回答（2人）

問6 議会報告会の評価について、お尋ねします。

①評価する（18人） ②評価しない（1人） ③どちらともいえない（11人）

※無回答（2人）

問7 にかほ市の議会や行政のこと 何でもご自由に記入してください。

- ・今後も同様な会議を重ねて欲しい。
- ・今後共この試みをお願いします。
- ・今後もこの様な会を開催していただきたい。参加させていただきたい。
- ・議会の様子が少しわかったように思う。市民と議員との意見がいろいろ聞けて出席して良かった。ワークショップとても良かった。
- ・初めてのワークショップでしたが、たくさんの意見を出し合って勉強になりました。
- ・議会がちょっと身近になりました。
- ・参加して Good!! 悪い人はいない。合併の弊害。（三町）
- ・今回の議員さん達は、報告等（市民に対し）前よりは良くやっていると思います。議会は中心の金浦にあるべきだと思います。
- ・議員、職員、地域に足を運んで自分の目で見、地域を良くするように日常的な活動を。
- ・ワークショップでは各テーブルで進行の仕方が違い、戸惑いました。次回はどのテーブルも同様の進行でお願いしたいです。若い人の参加を多く。（高校生との意見交換も希望）テーブルにゴミ箱が欲しいです。お菓子の袋入れです。
- ・「地方創生総合戦略」の KPI 達成度・進捗度の公開を!!（HP 上）
- ・一層の勉強に励んでもらいたいです。
- ・特にこれからの若者にとって、住みやすく、にかほに残り、生活に夢を持てる市づくりを期待します。
- ・今回は江藤先生の話から入って、話しやすいように思う。行政の人たちももっと市民の声を聞いてほしい。聞かないふりは絶対やめてほしいです。今後にかほ市を残して行くには、もっと考えてほしい。
- ・若い人の意見がとても良かったです。年代別のワークショップも開催してください。
- ・市民は専門家だという先生の話のとおり、市民の考えを聞いてほしい。
- ・にかほ市の方向性が見えない。
- ・最近の市議会はきにくわない。何是か？
- ・停滞しないで改革してほしい。

